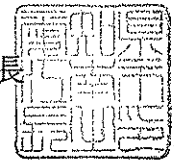




国土発第 342 号  
平成 19 年 4 月 27 日

国土交通省 道路局長 殿  
(中部地方整備局長経由)

愛知県 江南市長



中期的な計画の作成にあたっての意見について (回答)

平成 19 年 4 月 2 日付け、国道企第 114 号にて依頼のありました標記について、  
別紙のとおり回答します。

(別紙)

今後の道路政策や道路の整備・管理について、江南市として以下のとおり意見を提出します。

**【広域的な主要幹線道路の整備】**

- 名古屋市を取り囲む尾張北部地域の各都市（一宮・江南・大口・小牧・春日井）の連携・相互発展のため、国道155号の国道19号から国道41号を経て国道22号へ至る区間の4車線化が必要不可欠である。これらの各都市の発展による恩恵は当該地域のみが受けるものではなく、名古屋都市圏全体の発展に寄与するものであることから、当該事業を早期に実現するためにも事業主体を県（補助国道）から国（直轄国道）への格上げを望むものである。
- また、名古屋市を始め全国各地への高速道路ネットワークとしての江南市から最寄のインターチェンジが一宮（名神高速・名岐道路）および小牧（東名高速・名濃道路）であることから、これら2箇所の上り下りへの唯一のアクセスが上記の国道155号に頼っていることから、江南市の将来の発展のためにも、一刻も早い国道155号の4車線整備が望まれる。
- 名古屋市への通勤利便性向上のため、岩倉～一宮市内における県道名古屋江南線の早期4車線化を望む。

**【地域間連絡道路・都市計画道路の整備】**

- 江南市を取り巻く各市町との連絡・連携を向上させるため、都市間を連絡する機能を持った都市計画道路については県が主導的に整備を進めてもらいたい。
- 江南市における都市計画道路の整備率は64%程度であり、真に必要な道路の整備残は依然として山積している。
- 放射状道路として江南池ノ内線、江南大口線などの早期事業化が必要である。
- 環状道路として、江南市中心部の東回り環状線である江南岩倉線の全線整備が早急に望まれる。

#### 【渋滞対策・踏切除却・鉄道高架】

- 現在、国道155号と県道名古屋江南線との小郷町交差点が愛知県第4次渋滞対策プログラムに登録された主要渋滞ポイントであるが、両路線の渋滞緩和対策として国道155号と名鉄犬山線との踏切除却、並びにこれに合わせた国道155号の4車線化事業を重点的に進めていく必要がある。
- 名鉄犬山線布袋駅付近で事業化されている限度額立体交差事業については早期の完成を望むところであるが、江南市内では市の中心部である江南駅付近についてもボトルネック踏切が多数存在しており名鉄犬山線江南駅付近の高架化については江南市のまちづくりにとっての将来にわたる課題であるが、県管理道路が無いなど事業化は非常に困難となっている。事業としての枠組みではなく、真に必要な箇所へ道路特定財源を投入できるような仕組みが必要と思われる。
- 岐阜県各務原市方面から国道41号方面への流入交通量による渋滞が著しい愛岐大橋については、上流に計画されている新愛岐大橋を早期に架橋し交通量を分散させる必要がある。

#### 【生活道路の再整備】

- 江南市内の生活道路の多くは古くから土地改良系の面整備事業により整備が進められてきた。これにより整った区画道路の整備率が高いが、反面、農業用の道路としての整備であったため、道路幅が狭く歩道も設置されていない箇所がほとんどである。その後の市街化区域編入や宅地化の進展等による交通量の増大に対処できず、特に交通弱者にとっての重大事故の危険性が高いことから、市として地域住民の安全を確保すべく、必要な拡幅や歩道の設置等、生活道路の再整備を実施していくことが急務となっている。

#### 【維持管理・既存ストックの有効活用】

- 上記の通り、江南市内の道路の多くが昭和40年代に整備されたものであり、維持管理面においても抜本的な改修が必要な道路が数多く存在する。既存の道路インフラを有効活用するためにも、本来なら、アセットマネジメントを導入実施し、戦略的な維持管理計画を立案し、それに基づき日常の維持管理を実施すべきであるが、近年、本市においては積極的なメンテナンスと実施するだけの財源確保が困難な状態が続いており、誰もが安心して暮らせる町を実現するためにも、今後、維持管理費用の安定的な財源確保が益々重要となっている。

【まちづくり財源の確保】

- まちづくり交付金制度については大変有難い政策と感謝しているところであるが、中心市街地の活性化を更に進めるためにも、現行制度の継続確保と、更なる使途向上と要件緩和を望むところである。

【高速道路の有効利用のために】

- 高速道路インフラの有効活用策として、名神高速道路の岩倉バスストップを活用したスマートICの整備を提案する。一宮市と岩倉市境に位置する岩倉バスストップは一宮ICと小牧ICのほぼ中間に位置しており、4車線拡幅整備中の県道名古屋江南線と直近で交差し、さらには名神高速の両側には側道があることから、整備が比較的簡易である。これにより、一宮及び小牧ICの混雑緩和と高速道路の利用者増大、一般道の渋滞解消が期待できる。